

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

- | | | |
|----|---------|------------|
| 1. | 学校教育学部 | 3-1-1 (教育) |
| 2. | 学校教育研究科 | 3-2-1 (教育) |

学校教育学部

I	教育水準	3-1-2(教育)
II	質の向上度	3-1-5(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、4専修21コースを設置し、担当教員は139名が配置されている。入学定員100名に対して法人化以降の充足率が平均117%、学生総数に対する教員一名当たりの学生数が3.4名（平成19年度）の体制を維持している。学校教育学部の教育目的を達成するための全学的なセンターとして地域連携センター、実技教育研究指導センター、高度情報研究教育センター及び心身健康研究教育センターの4センターを設置して教員養成に対する社会的要請や現代社会の教育ニーズに応えているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）推進事業専門部会によって講演会やシンポジウムの開催の他、学部授業改善のためのファカルティ・ディベロップメント（FD）ワークショップ、公開授業週間、特別公開授業及び授業研究会等の事業を実施している。これらを受けて、平成17年度から教育実践力を培うための教員養成コア・カリキュラムを開始し、学生の早期からの教職への意識高揚や学校現場に対する理解の深化を図っている。また、これらのシステムが教育の質の向上や改善に結びつけるシステムとして機能しているかを評価するため、評価委員会の下に、学外委員を含めた「教育評価部会」を設置し、評価を実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、学校教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、学校教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、全学的に教育課程を教養基礎科目、教育実践コア科目、教職共通科目、専修専門科目及び卒業研究に区分するとともに、各専修別・授業科目区分等別の所要修得単位数を設定しており、また各授業の目的・主旨・計画・評価基準等をシラバス

に明記して学生に周知を図っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、専修の枠を越えた科目履修による複数免許状の取得及び60単位以内での単位互換の認定、大学以外の教育施設での学修、入学前の既修得単位の認定等の制度を設けて学生の多様なニーズに対応している。保育士・学校図書館司書教諭・学芸員の資格取得のための授業開講の他、聴講生・研究生・科目等履修生の受入れ制度を設けて社会からの要請に対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、学校教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、学校教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、教養基礎科目と教育実践コア科目は演習中心、教職共通科目と専修専門科目は講義中心の授業形態にするとともに、「実地教育」における他の講義との関連性や4年間を通じての体系的な編成、「総合演習」における少人数グループによるフィールド型授業形態の導入、「英語コミュニケーション」における嘱託外国人講師による少人数グループ教育、この他「演習」や「実験」科目におけるティーチング・アシスタント(TA)活用等、授業内容に応じて学習指導法の工夫を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、オフィスアワーの設定による授業に関する質問・相談、クラス担当教員による履修状況の把握と助言、3年次からの指導教員によるコース別・個人別の指導等の体制、個人的能力差の大きい実技における「グレード制」による指導と達成度の認定、自習室や研究室・セミナー室の開放等学習・研究環境の整備を図るとともに、予習・復習の促進、この他水曜日の午後における自主学習時間の確保等単位の実質化を図っており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、学校教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、学校教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学位取得率が93%強(平成19年度)、教育職員免許状一括申請件数が申請者121名で421件(平成19年度)及び保育士・学校図書館司書教諭・学芸員の資格取得が42件(平成19年度)、学外団体による学生表彰が平成16年度以降11件であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成20年度3月実施の「教育等に関するアンケート」調査の結果によれば、「十分身に付いた」「どちらかといえば身に付いた」の肯定的回答が「本学で学んだことの成果について」の設問において約64%、同じく「具体的な成果として：教員資格」の設問において約54%、そして、「総合的に判断して、社会に出て、本学の教育内容が役に立つと思うか」の設問において約58%という状況にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、学校教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、学校教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況期待される水準にある

[判断理由]

「卒業(修了)後の進路の状況」については、教員就職率が60%台、進学率10%台、教員以外就職率10%台であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成19年10月に実施した徳島県教育委員会教育長及び公立学校長を対象としたアンケート調査の結果によれば、当該大学卒業生である教員を「総合的に評価すると、満足できる」との設問において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的回答が81.2%、また、当該大学卒業生である「教員の全体的な印象について」の設問の10項目中9項目において肯定的回答を受けているとともに、平成20年3月実施の卒業生対象のアンケート調査の結果によれば、「総合的に判断して、社会に出て、本学の教育内容が役に立つと思うか」の設問において肯定的回答が約58%であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、学校教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、学校教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判

断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

学校教育研究科

I 教育水準	3-2-2(教育)
II 質の向上度	3-2-5(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、学校教育研究科の目的の達成と特定分野の専門性の向上を図るため、3専攻12コースを設置し、入学定員300名に対する法人化以降の定員充足率が平均84.5%であるとともに、研究指導教員76名、研究指導補助教員75名を配置しており、基準を十分に満たしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、平成19年度からのファカルティ・ディベロップメント(FD)ワークショップの実施や院生の授業評価の毎学期実施と調査結果の教員へのフィードバック及びその分析・評価と授業改善の具体策を取りまとめた『大学院生による授業評価実施報告書』の公表やその成果としての授業科目「教育実践研究」の開設等の相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、学校教育研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、学校教育研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育に関する専門職として必要な資質や能力の向上を図り、学校教育の創造に主体的に取り組むことのできる高度な実践的力量的涵養を目的として、教職基礎科目、専門科目、教育実践研究及び課題研究による教育課程の編成、授業科目の区分とその内容にかかわる開設趣旨及び区分別の単位と専攻・コース別に開設授業科目・単位数・履修方法等を明確にするとともに、シラバスに各授業の目的・主旨・計画・評価基準等を明記して、教育内容の周知を図るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、平成17年度から在学期間3年間で修士の学位取得と幼稚園・小学校・中学校のいずれかの教育職員免許状取得を可能にする長期履

修学生制度を活用した学校教員養成プログラムの開発・導入（平成 17 年度から平成 19 年度の利用者 171 名）、他専攻・コースの科目履修や 40 単位まで履修可能な学部の科目履修及び 10 単位以内での単位互換等を認めるなど、院生の多様なニーズに対応するとともに、昼夜開講制度や聴講生・研究生・科目等履修生の受入れ制度等の社会からの要請に対応しており、優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、学校教育研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、学校教育研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、各授業科目について講義・演習等の明確な区分を設けず授業の内容に応じて適宜、有効かつ多様な授業形態を採ることにしており、授業の多くが受講生 10 名以下で編成されるため少人数かつ対話・討論形式の授業が可能となるようにしている。学習方法として少人数教育の特性を活かすため専門科目、教育実践研究、教育課題研究及び課題研究のそれぞれの授業内容に応じて工夫していること、院生をティーチング・アシスタント(TA)として毎年度 40 名採用して研究で培った知識・技能の再確認、研究の整理及び教育的資質の育成等の機会としているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、オフィスアワーの設定による授業に関する質問・相談や指導教員による個別指導、専攻・コースごとの院生室、端末室（24 時間）や図書館（22 時まで）の利用時間の延長、研究個室やセミナー室の設置、水曜日の午後における自主学習時間の確保等の学習環境の整備を図り、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、学校教育研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、学校教育研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修了率が約 95% (平成 19 年度)、教育職員免許状一括申請者 119 名・申請件数 237 件で 1 名当たり約 2 件 (平成 19 年度)、学校図書館司書教諭・学芸員等の資格取得者 13 名 (平成 19 年度)、学外団体による学生表彰が平成 16 年度以降 36 件であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「平成 18 年度大学院生による授業評価実績報告書」によれば、「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」の設問のいずれにおいても、「まったくそう思う」「かなりそう思う」の肯定的回答が 98%、また、15 項目の設問全体において肯定的回答が 95%であるとともに、平成 19 年 10 月実施の「教育等に関するアンケート」調査の結果によれば、「教育内容の理解度について」の設問で「よい」「どちらかといえばよい」の肯定的回答が 74.2%、「普通」が 21.7%で、約 96%の院生が教育内容を理解しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、学校教育研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、学校教育研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、法人化以降の 4 年間の教員就職率（期限付採用教員含む）が 40%台から 30%へと減少傾向にあり、平成 19 年度は修了者 147 名のうち教員就職者 71 名(48.3%)、教員以外の就職者 50 名(34.0%)、進学者 3 名(2.0%)である一方で、平成 20 年 3 月に長期履修学生制度を活用した学校教員養成プログラムに基づく第 1 期修了生 37 名中 30 名(81%)が教職に就いているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 17 年 1 月及び平成 19 年 10 月に実施した県下教育委員会教育長や公立学校長を対象としたアンケート調査の結果によれば、学校教育研究科で「2 年間学んできた教員を総合的に評価すると、満足できるか」の設問において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的回答が 68.2%(平成 17 年 1 月実施)、また、「総合的に評価して、教員として満足できる」の設問において同じ肯定的回答が 66.1%(平成 19 年 10

月実施)であり、教員の資質・能力についておおむね評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、学校教育研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、学校教育研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

